

令和7年度 助産師職能委員会 活動報告

■委員名

委員長：竹崎裕子

副委員長：野牧弘子

委員：岩崎加代 宿見めぐみ 増田裕佳里 上田めぐみ 西尾奈津子 小比賀 桂
長井亜矢子 岡田知子 牛越幸子

■活動目標

1. 助産師による女性とその家族への支援に関する現状把握と課題を見出す。
2. 母子のための地域包括ケア病棟の推進にむけた多職種連携を強化する。

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和7年4月5日	9名	・全国助産師職能委員長会報告 ・予期せぬ妊娠 SOS 相談事業及び特定妊婦等居場所確保・自立支援事業連携会報告 ・令和6年度活動報告、令和7年度活動計画の検討 ・令和7年度保健師助産師看護師合同職能集会の企画
2	令和7年5月16日	11名	・令和7年度保健師助産師看護師合同職能集会の企画 ・助産師交流会、保健師助産師交流会の企画
3	令和7年7月5日	10名	・令和7年度委員自己紹介 ・令和7年度活動計画について（日程・役割分担）
4	令和7年8月30日	8名	・全国助産師職能委員長会報告 ・助産師交流会、保健師助産師交流会の企画 ・保健師助産師看護師職能合同交流会
5	令和7年9月19日	9名	・予期せぬ妊娠 SOS 相談事業及び特定妊婦等居場所確保・自立支援事業連携会報告 ・助産師活用推進検討会報告 ・助産師交流会、保健師助産師交流会の企画
6	令和7年10月18日	11名	・助産師交流会、保健師助産師交流会の企画 ・令和7年度活動報告の検討
7	令和7年11月29日	11名	・地区別助産師職能委員長会報告 ・令和8年度活動計画の検討 ・助産師交流会当日準備 ・助産師交流会
8	令和7年12月20日	10名	・近畿地区助産師職能合同研修会（オンライン） ・保健師助産師交流会の企画 ・令和8年度活動計画の検討
9	令和8年1月31日	9名	・令和7年度活動報告、令和8年度活動計画の検討 ・保健師助産師交流会当日準備 ・保健師助産師交流会

10	令和8年2月20日	11名	・保健師助産師看護師職能合同交流会の企画 ・助産師交流会の企画 ・令和7年度活動報告の検討
11	令和8年3月14日	11名	・全国助産師職能委員長会報告 ・助産師活用推進検討会報告 ・保健師助産師看護師職能合同交流会の企画

■活動内容	1. 保健師助産師看護師職能集会 日 時：令和7年6月19日 9：30～12：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和6年度助産師職能委員会活動報告 令和7年度助産師職能委員会活動計画 特別講演 テーマ：「ネガティブ・ケイパビリティを身につけて、不確実な時代を生き抜こう！」 ～モヤモヤを宝に変えて自分を大切に働こう～ 講 師：コミュニケーションサロン 勇気のしずく 代表 長谷静香 氏 参加者：129名（会場82名 オンライン47名） 2. 保健師助産師看護師職能合同交流会 日 時：令和7年8月30日 13：30～16：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：「地域を結ぶ看護職の力」 ～災害時における人工呼吸器装着者（児）への支援～ 講 師：あかし保健所 健康増進課 草野一恵 氏 参加者：129名（会場66名 オンライン63名） 3. 助産師交流会 日 時：令和7年11月29日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：「多様な分娩スタイルと助産ケアについて共有し、 助産実践能力を向上しよう ～無痛分娩編～」 講 師：あさぎり病院 名誉院長 野原 当 氏 あさぎり病院 助産師 西尾奈津子 氏 母と子の上田病院 助産師 小林 園 氏 参加者：56名 4. 保健師助産師交流会 日 時：令和8年1月31日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：「保健師と助産師の協働による子育て支援」 ～妊娠期から乳幼児期までの虐待予防を考える～ 内 容：講演と地区別交流会 講 師：明石こどもセンター 嘱託医 甲南女子大学 名誉教授 稲垣由子 氏（小児科医） 所 長 秋末珠美 氏（保健師） 参加者：63名
-------	---

	5. 近畿地区助産師職能合同研修会（和歌山県看護協会主催） 日 時：令和7年12月20日 10：00～12：00 場 所：オンライン配信 テーマ：「ポジティブな出産体験を通して、 女性とのパートナーシップを考えよう」 講 師：和歌山県立医科大学保健看護学部 母性看護学 准教授 ドーリング景子 氏 参加者：123名
■活動の評価	1. 助産師による女性とその家族への支援に関する現状把握と課題を見出す。 看護職は業務で正確さが求められるため「答えを出す思考」に偏りがちだが、中堅期には人間関係や家庭・自身の心身の変化など、答えのない悩みを抱えやすい。職能集会で学んだ「ネガティブ・ケイパビリティ」は、未解決の状態を受け入れつつ働く力であり、その重要性を実感した。看護職自身が心身ともに健康であることは、対象者への支援の質向上につながる。 さらに助産師には、女性とその家族に寄り添う伴走型の支援が求められる。助産師交流会では、近年関心の高い無痛分娩をテーマに、助産師の役割や助産ケアのあり方について理解を深める機会とした。目標をもった自主的な参加者も多く、関心の高いテーマであったといえる。多様な分娩スタイルに対する理解を深め、女性の選択を尊重したケアについて学びを得ることができた。近畿地区助産師職能合同研修会では、パートナーシップの実例を聞くことができ、助産師の自律と切れ目ない支援の重要性を学ぶことができた。専門職として女性の主体性を支援するために、自律性を高め実践力を向上させることが重要である。 2. 母子のための地域包括ケア病棟の推進にむけた多職種連携を強化する。 母子のための地域包括ケア病棟（院内助産・助産師外来、産科関連病棟におけるユニットマネジメント、医療機関における産後ケア事業、地域連携）の4つの機能を推進していくために保健師助産師交流会を企画した。児童虐待の現状および行政における実際を学び、保健師との相互理解を深め、妊娠期からの虐待予防における助産師の役割を認識するために実施した。アンケート結果から、保健師の部署や役割が多岐にわたることへの理解が深まり、こどもの人権をともに考え続けられる関係性を築くことの重要性を再認識できた。核家族化が進み、産後の支援が少ない家庭が増えており、産後うつ予防や虐待防止の観点からも「病院（医療）」と「自宅（生活）」の間をつなぐクッションとして両者の役割が重要視されていることがわかった。交流会を通して助産師の専門性が虐待の一次予防に直結されることが再確認された。保健師へつなぐ役割の重要性が共有されたことは大きな成果である。それぞれの専門性や役割について話し合う有意義な機会となった。 三職能合同交流会では、地区別交流会を通して、病院・訪問看護・保健所などで災害時の対応について具体的に意見交換できる機会となった。地域で生活をしている妊産褥婦も多く、日頃から地域と病院の看護職間で情報共有し、顔の見える関係づくりが重要であると改めて認識することができた。
■今後の課題	- 産科関連病棟の混合病棟化の増加に伴い、母子にとって安心・安全な環境の確保への取り組みとして、母子のための地域包括ケア病棟（産科関連病棟におけるユニットマネジメント、産科区域特定）を推進する。 - 女性とその家族への支援に向け、助産師のスキルアップを図る。 （プレコンセプションケア、更年期障害の支援）